

令和2年度 第1回 桐生市総合教育会議 議事録

- 1 日時** 令和2年5月21日(木) 午後3時～午後3時45分
- 2 場所** 新型コロナウイルス感染症の拡大を防止する観点から、WEB会議システムを活用し、下記場所にて会議に出席
[荒木市長] 桐生市役所 新館 7階 情報管理課内
[柴崎教育長] 同 議会棟2階 正庁1
[板橋教育長職務代理者] 群馬大学大学院理工学府 板橋研究室
[新居教育委員] 新居委員宅
[高山教育委員] 高山委員宅
[山野教育委員] 山野委員宅
[市長部局事務局] 桐生市役所 議会棟2階 正庁2
[教育委員会事務局] 同 新館 7階 情報管理課内ほか

3 出席者

【構成員】 桐生市長 荒木 恵司

桐生市教育委員会

教育長 柴崎 隆夫

教育長職務代理者 板橋 英之

委員 新居 理恵

委員 高山 信廣

委員 山野 玲子

【事務局】 (市長部局)

共創企画部長 新井 利幸

企画課長 田島 規宏

企画戦略担当係長 金子 貴征

(教育委員会事務局)

教育部長 西場 守

教育部参事 前原 通宏

教育部総務課長 小山 貴之

教育部総務課教育未来室長 原橋 貴史

教育部総務課教育未来室

教育未来係長 千葉 敦弘

教育未来係 寺島 達也

【傍聴者】 0名

【報道機関】 5名

4 報告事項

- (1) 桐生市総合教育会議運営要綱の一部改正について

5 協議・調整事項

- (1) 第2期桐生市教育大綱の策定について

6 議事の概要

(開始：午後3時)

○開会 〈司会：教育未来室長〉

○あいさつ

桐生市長 荒木 恵司

皆様、こんにちは。

本日は、「令和2年度 第1回 桐生市総合教育会議」に参加をしていただき、誠にありがとうございます。

また、皆様には、平素から教育行政はもとより、桐生市政の各般にお力添えをいただいておりますことに、心から感謝を申し上げます。

さて、昨年度の総合教育会議において、教育委員や教育関係者の皆様のご意見を伺い、その考え方を反映した次期教育大綱を策定したいと考え、計画期間を1年間延長させていただきました。

現行の教育大綱における基本大綱は、「桐生を好きな子供の育成と生涯学習の推進」となっております。委員の皆様には、第2期桐生市教育大綱の方向性や骨子に関する忌憚のないご意見をいただきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

○報告事項 〈議長：荒木市長〉

- (1) 桐生市総合教育会議運営要綱の一部改正について

発言者	発言内容
事務局	(資料1「桐生市総合教育会議運営要綱の一部改正について」説明。) ・令和2年4月30日付で、総合教育会議に関する事務の移管に係る「協議書」を締結し、総合教育会議に関する事務を共創企画部企画課から教育委員会事務局に移管したことに伴い、運営要綱第8条を改正した。 ・改正理由は、令和2年度に第2期桐生市教育大綱策定に向けた作業を速やかに進める必要があるため、総合教育会議の事務局と教育大綱の策定について、教育委員会事務局が一体的に所管することとし、事務の合理化と効率化を図る。

発 言 者	発 言 内 容
事務局	・事務の移管方法は、地方自治法第 180 条の 2 に定める「補助執行」により行い、総合教育会議に関する権限を市長に残したまま、事務の所管を教育委員会事務局に移管した。

○協議・調整事項 〈議長：荒木市長〉

(1) 第 2 期桐生市教育大綱の策定について

発 言 者	発 言 内 容
事務局	<p>(資料 2 「第 2 期桐生市教育大綱の策定について」説明。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育大綱は、「地方教育行政組織及び運営に関する法律」第 1 条の 3 に規定されるもので、地方公共団体の長が地域の実情に応じて、教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策を定めるものと義務付けられており、大綱の策定は、「総合教育会議」において協議・調整を行うものとなっている。 ・教育大綱は、地方公共団体の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策について、その目標や施策の根本となる方針を定めるものであり、策定に当たり国の教育振興基本計画における基本的な方針を参酌して定めるほか、市の総合計画を参考に定めることもできる。 ・教育大綱の計画期間については、桐生市では、平成 27 年度に計画期間が 3 か年の教育大綱を策定した。また、平成 29 年度に大綱策定に当たり参考としている市の総合計画の計画期間が 2 か年延長されたことに伴い、大綱の計画期間も 2 か年延長した。さらに、令和元年度に第 2 期桐生市教育大綱の策定に当たっては、令和 2 年度を初年度とする「桐生市第六次総合計画」の策定を踏まえた上で、市長と教育委員会がしっかりと議論を重ね、新たな大綱の策定を進める必要があることから、大綱の計画期間を更に 1 か年延長した。 ・第 2 期桐生市教育大綱の計画期間は、「桐生市第六次総合計画」との整合性を考慮し、令和 3 年度から令和 5 年度までの 3 か年にしたいと考えている。 ・教育大綱の策定スケジュールについては、本日の第 1 回総合教育会議後、教育関係者（PTA）との意見交換会を経て、第 2 回から第 4 回までの総合教育会議を開催し、12 月の市議会定例会に議案を上程したいと考えている。 ・教育大綱の内容については、本日、委員の皆様のご意見を頂戴したいと考えている。
荒木市長	ただ今、事務局の説明がありましたが、教育委員の皆様から教育大綱策定の方向性についてご意見をお願いいたします。こちらから指名いたしま

発 言 者	発 言 内 容
荒木市長	<p>すので、順番にご発言をお願いいたします。それでは、板橋委員からご発言をお願いいたします。</p>
板橋委員	<p>2つお話したいと思います。まず1つが、市長が掲げている「世界に羽ばたく人材の育成」についてです。桐生から世界へというのは、素晴らしいお考えであると思っております。このためには、グローバルな視点を持った人材の育成が重要で、そうした人材の育成には、グローバルな視点を持っている人との交流を積極的に行うことが必要であると思っております。群馬大学理工学部には、グローバルな世界で活躍する教員や、「グローバルフロンティアリーダーコース」に所属してグローバルな世界で活躍することを目指して特別な教育を受けている学生もいます。さらに、留学生もいるなど、群馬大学理工学部との連携を更に強化した教育を行っていくことが、これからのグローバルな人材育成を行う上で必要であると思っております。幸いなことに、群馬大学理工学部と桐生市は、7年前にサイエンスドクター事業を開始し、こうした取組により、市内の生徒が「科学の甲子園ジュニア」の県大会や全国大会に出場するといった成果も生まれていますので、これからはそうした取組を更に充実させていただきたいと考えています。例えば、群馬大学理工学部は、現在、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため休止していますが、子供が将来取り組んでみたいアイデアを絵にするような「発明創造家コンクール」や、学園祭において理工学部が単独で行っているような取組を桐生市と連携して実施できると素晴らしいと考えています。</p> <p>2つ目は、A I時代を迎える中での人材育成が課題であると思っており、今までは、早く正確に答えを出す人材を育成するための教育を行ってきましたが、A Iが発達してきており、そういったものはA Iが圧倒的に得意なので、違う視点からものを考えられる人材、新しい意味を作り出す人材、「ゼロイチ」を生み出すと言いますが、そういう人材を育成する必要があります。そのためには、ひらめきを生むことができる、感性を持った人材を育成することが必要です。感性を生み出すためには、本物に触れる必要があります。特に、自然に触れることは非常に重要で、その点からすると、桐生市は感性を生み出す教育にとって非常に良い位置にいると思っております。例えば、未来創生塾が行っているような取組を一部ではなく、広く拡充し、桐生市ならではの豊かな感性を持った子供を育むための教育を行っていただきたいと思います。</p>
荒木市長	<p>ありがとうございました。2点ご提案をいただきました。まず、グローバルな視点の人材の育成には、グローバルに活躍する人との交流が必要であることです。これまで桐生市でも、群馬大学理工学部とは「まちの中に大学があり、大学の中にまちがある」推進協議会を中心に一体となって取</p>

発 言 者	発 言 内 容
荒木市長	<p>り組んでまいりましたが、教育に関しても、子供にとって群馬大学との更なる連携の必要性を感じました。</p> <p>また、A I に関しても、これから新型コロナウイルス感染症が終息後、地方都市では、仕事と教育、その中でもA I や I C T が注目されてくると思いますので、引き続き、板橋委員のご意見をいただきながら、進めていければ良いと考えております。</p> <p>貴重なご意見をありがとうございます。続きまして、新居委員からご意見をいただきたいと思います。</p>
新居委員	<p>学校教育と社会教育とのバランスについてお話ししたいと思います。学校教育と社会教育には、重なる部分があるものの、別のものとしてそれぞれ独立しているという印象があります。学校においては、地域に開かれた学校を目指して取組を進めていただいております、一方、地域においては、地域の子供は地域で育てるという形で様々な取組を熱心に進めていただいておりますが、どちらかという福祉的な見守りの側面が強いように感じています。そうしたことも重要で必要なことであり、子供が親の知らないところで、多くの方に心を寄せていただいていることは、保護者としても有難く、安心感にもつながっているところですが、これからは、地域の方に更に積極的に学校や子供に関わってもらえるようなシステムも必要になってきていると感じています。</p> <p>桐生市では、産学官が連携した未来創生塾で、素晴らしい成果や実績があるほか、ここ数年の間に、いくつかの小学校で放課後子供教室事業が進められており、その足掛かりのようなことは広がってきているように思います。それぞれの事業を更に進めていただく一方で、将来的にはもっと広く、学校教育と社会教育が重なる割合が多い教育スタイルを考えていくことも大切であると思います。</p> <p>市長が公約に掲げている「世界に羽ばたく人材の育成」について、一般的には、日本から海外へ出て活躍するという捉え方になると思いますが、私は少し違う解釈をしております、桐生で育まれた子供一人一人がそれぞれその人自身の世界で大きく羽ばたけるような人に成長してほしいと思っています。私のこういった解釈も含めて、世界に大きく羽ばたくためには、学力も大切、体力も大切、他にも大切な要素はたくさんありますが、やはり人間力なのかなと思っています。色々な世界の色々な価値観を持った方と接する機会があるということは、子供の人間形成においても有益であると思います。また、そこに参加する地域の大人にとっても、子供と触れ合える機会があることは、とても良いことであると思います。子供と地域の大人が触れ合うことで、大人も刺激をもらい、生涯学習の側面も推進され、子供と接すること自体が生きがいになるということも期待できるよ</p>

発 言 者	発 言 内 容
新居委員	<p>うに思います。また、様々な機会を通じて、育った地域の大人と交流を持てた子供は、大人になってからその地域で子育てしたいと思うようになる傾向があるようです。教育の分野から離れてしまうところもありますが、子供を通して、子育て世代の家庭と地域がつながる、つながりを持つことは、災害などの有事の際にも良い作用が生まれ、虐待などの助けが必要な家庭や子供にアクセスしやすくなる効果もあるように思います。ただし、地域の方にとっては、もっと子供と関わりを持ってほしいといわれても、何をしたら良いのかわからないのではないかと思いますので、まずは、教育行政や学校がリードしていく必要があると感じています。</p> <p>また、数年来の課題である先生方の働き方改革にも、繋げていくことができるのではと考えています。教育というと、どうしても学校にお任せという雰囲気があると思いますが、教育のプロフェッショナルである学校がその中核を担うことは大切であります。そこだけでなく教育行政を中心として桐生市が一体となって子供を育てていくことを拡充することができれば、色々な世代の方にとっても幸せなことであると思っています。</p>
荒木市長	<p>ありがとうございました。「世界に羽ばたく人材の育成」について、違う観点からご指摘をいただいたように思います。キーワードとしては、地域に開かれた学校という部分で、これからは一歩踏み出して地域と共にある学校、それが地域の方との関わりになっていくことにもなりますし、子供から大人まで共に学び合える地域になるのかと思います。まち全体が大きな学校というようなイメージを持ちながら、これから進めていくことが大切であると感じました。</p> <p>大変ありがとうございました。続きまして、高山委員からお願いいたします。</p>
高山委員	<p>こらからの桐生の教育を考えるに当たり、私の考えを述べさせていただきます。はじめに、桐生市教育委員会は、矢村教育長の時代から20年以上にわたって、桐生を好きな子供を育てることに重点をおいて、教育活動に取り組んできていると思います。そして、これまでに着実に成果を積み上げてきているように感じています。</p> <p>この「桐生を好きな子供の育成」を基盤として、今後、更に発展させていくことが大事であると考えています。これからの社会は、ますますグローバル化が進むと思われ、現在、国内には、様々な国の人が生活を営んでいます。また、観光地では、様々な外国の言葉を耳にします。子供は、これからますますグローバル化が進む社会を生き抜いていかなければなりません。このような日本の社会で、または日本国の外に出て世界を舞台に活躍していくためには、人として礎となるものを身に付けることが望まれます。私は、その礎の要素として、自己の存在証明、言い換えると、</p>

発言者	発言内容
高山委員	<p>自分の拠り所になるものが必要ではないかと考えています。その手立ての1つとして、ふるさと桐生の自然や歴史や文化など、「桐生」を身に付けることが考えられます。そのことは、桐生を好きな子供を発展させて、「桐生人」としての意識を育むことではないかと考えています。子供が発展して、「桐生人」につながっていくような教育はいかがかなというように考えています。</p>
荒木市長	<p>ありがとうございました。今までも「桐生を好きな子供の育成」に取り組むことにより、着実に成果が生まれてきていること。また、その発展形を目指していかなければならないということであると思います。その中で、「桐生人」という言葉がでてきました。私も、若い頃に「桐生人気質」や「桐生人堅気」という言葉を使った記憶があります。桐生が持っている地域の特性、自然や文化などをしっかりと子供に引き継いでいくことが、大切であると思います。さらに、「桐生を好きな子供の育成」からもう一歩進む中で、新しい社会を創ること、これからの桐生を創っていくという自治意識を子供に持ってもらいたいと考えています。具体的には、桐生の良いところを中学生や高校生が、ボランティアガイドとして多くの方に語り、語り人になるような、そういった形を作って行けば、自治意識の部分も成長するのではないかと考えています。</p> <p>大変貴重なご意見ありがとうございました。続きまして、山野委員お願いいたします。</p>
山野委員	<p>社会教育についてお話をさせていただきます。私は、少し前に大川美術館で、桐生市芸術大使の山口晃さんの作品を見るため、『桐生のアーティスト 2020』に行ってきました。山口さんの絵は、とても素晴らしかったです。また、会場で桐生の本町通りの大作を描いた作家の方とお話をすることができました。美術館に出向き、見たい絵を見て、目的が達成されたのですが、さらに、作家の方とお話するという新たな収穫があり、久しぶりにワクワクしました。ワクワクするということは、心が満たされ、人を意欲的、前向きにしてくれます。</p> <p>色々な人と関わる体験、本物に触れる経験、多様な価値に触れる経験などから、子供も大人もワクワクする社会教育の充実に力を入れてほしいと考えています。子供にとって学校と家庭以外に居場所がある。そこで様々な人と出会い、今まで見たことも聞いたこともないものに触れ、様々なことに取り組むことは、子供の感性を育む、人づくりの場となります。豊かな感性で学び続けることは、夢と志を持ち、可能性に挑戦する子供に必要な力の一つであると考えています。学校も、子供の生きる力を育むために必死です。しかしながら、いじめや不登校等の課題も少なくありません。このような課題解決にも家庭と学校、そこに地域が新たな関わりを創造</p>

発 言 者	発 言 内 容
山野委員	<p>し、三位一体となり、人づくりや地域づくりに取り組むことが急務であると感じています。なかなか学校教育を考える視点から、社会教育や生涯教育を考える視点に頭を切り替えられずにいますが、10年先、20年先を見越して、桐生の新たな社会教育が発展していくと良いと思います。</p> <p>大川美術館の『桐生のアーティスト 2020』は、人を集め、ワクワクさせる企画、新たな視点でのコーディネートでした。そこに行けば、魅力ある人、魅力あるもの、魅力あることに出会える場所が、市の施設だけでなく、子供が気軽に行ける、すぐに行ける地域にもあると良いと思います。</p> <p>魅力ある人、世界に羽ばたく桐生人、「桐生ならではの」を発信している人、様々な文化の担い手、活力ある群大生や高校生、地域で子供の安全安心を見守り続けてくださっている方など、魅力ある人がたくさんいます。</p> <p>魅力あるもの、桐生が岡公園と群馬大学、山紫水明の豊かな自然と歴史的建造物、技術や研究を駆使して新しいものもたくさん桐生から誕生しています。</p> <p>魅力あること、これが一番重要なことでしょうか、新型コロナウイルス感染症対策で、いまだかつてない経験をしています。集うこと、学ぶということ、学校へ行くということの意味を、今、皆が深く考え、新たな価値を見出しているのではないかと思います。この経験を踏まえて、魅力あることをコーディネートしたいと思います。新たな視点で企画する、公募するなど、新しいプランを期待しています。</p> <p>最後になりますが、二十数年前、桐生市市民文化会館が開館したときのことを私はとても良く覚えています。市民文化会館は、桐生市の文化活動の拠点として、子供から大人まで生活の中に溶け込み、なくてはならない施設になっています。現在、陸上競技場、市民体育館、共同調理場、県立高校の増改築等、子供のため、市民のために環境整備が着々となされています。とても喜ばしいこと、明るい話題です。是非、これらの環境の中で、新たな視点で、社会教育が充実することを願っています。</p>
荒木市長	<p>ありがとうございました。キーワードとして、魅力ある人、魅力あるもの、魅力あることがあり、それぞれをコーディネートしていくことが大切であるというお話をいただきました。私は、市長に就任後も、大川美術館には何度も足を運んでおり、山野委員のお話にもありました『桐生のアーティスト 2020』も拝見しました。その際に、山口晃さんにもお会いすることができ、現在は未完成の「ショッピングモールの絵」にも非常に感銘を受けました。</p> <p>また、以前、創設者である大川榮二さんの奥様にお会いした際に、奥様が執筆された『暖（ぬく）め鳥（どり）』のお話をお聴きしました。『暖め鳥』は、極寒の自然環境の中で、鷲が爪の間に小さい鳥を入れて、一晩だ</p>

発 言 者	発 言 内 容
荒木市長	<p>け暖を取り、朝になるとその恩に報いて、その鳥を逃がしてあげるというお話です。その小さい鳥のことを「暖め鳥」と表現しているようですが、この題名は、大川館長が桐生に帰ってくると、桐生の人や自然が、この「暖め鳥」のように温かく迎えてくれる、そんな印象を持っていたという逸話をもとにしたものであるそうです。</p> <p>大変貴重なご意見ありがとうございました。続きまして、最後に柴崎教育長からお話をさせていただければと思います。</p>
柴崎教育長	<p>新しい時代を担う子供のために、教育行政が果たすべき役割という観点からお話をさせていただきます。今年度から、学生指導要領が変わりました。それに伴い、子供が使用する教科書も変わり、新たな教育が始まりました。知識、技能の習得はもとより、思考力、判断力、表現力の育成、あるいは、学びに向かう力、人間性の涵養、備えるべき資質や能力が示されています。各学校では、主体的、対話的で深い学びを通して、これらの資質や能力を子供に身に付けさせるため、教育目標を定め、目標達成のための様々な教育活動を進めています。6月から学校が再開される予定ですが、市内の先生方は、一丸となって新しい教育が目指す人づくりに取り組んでくれるものと考えています。</p> <p>教育委員会は、各学校における教育活動がより効果的に、そしてより質の高い教育になるよう、その基盤づくりに取り組まなければならないと思っています。20年後や30年後に活躍する子供が、十分にその資質や能力を身に付けるために、今ある教育課題を解決しながら、新たな方策を考えていかなければならないと思っています。桐生市教育委員会は、今年度から教育総務課内に教育未来室を設置しました。この教育未来室をしっかりと機能させ、本市の教育の更なる充実を図りたいと考えています。</p> <p>より効果的に、より質の高い教育のための基盤づくりについてですが、次の4点を強調したいと考えています。1点目は、教育環境の整備です。校舎や校庭、体育館遊具などの安全確保のための整備、また、今は普通教室に入っていますが、それ以外のエアコンの設置など、子供が安心安全で快適に学習できる教育環境の整備です。また、これからの社会においては、インターネット等による情報活用能力、あるいは管理能力がより大事になってきます。学校におけるICT教育は、ますます重要性を増してきますので、その環境の整備を急がなければならないと考えています。</p> <p>2点目は、教員の資質向上のための教育研究施設の整備です。より質の高い教育を実現するためには、指導力の向上が重要であると考えています。そのためには、研修環境を増強する必要があると考えています。</p> <p>3点目は、学校教育、社会教育の指導体制の整備です。子供を育てる環境は重要であり、家庭、学校、社会のそれぞれの役割を自覚して、それぞ</p>

発 言 者	発 言 内 容
柴崎教育長	<p>れの責任をしっかりと果たす必要があります。特に、社会教育の場面では、教育環境や組織の構築、指導者の養成、教育プログラムの開発など、その基盤づくりが必要であると考えています。</p> <p>最後に4点目は、幼稚園、学校の適正規模・適正配置です。学校や園の小規模化により教育活動に様々な弊害が生じております。より質の高い教育の実現には、適正規模が是非とも必要であると考えています。</p> <p>以上、本市のより質の高い教育の実現のため、基盤づくりについて4点お話ししましたが、これらのことは、教育未来室をはじめ教育委員会の各課で既に取り組を始めています。今後、実現に向けて、更に取り組を加速させていきたいと考えています。</p> <p>話は変わりますが、本市の教育に関する歴史をみますと、1300年の歴史を持つ「織物のまち」として栄えてきた桐生ならではの教育の歴史、伝統、あるいは実績がたくさんあります。1つ目は、女性が主力であった織物産業、この町でこの環境でどうしても必要だったのが幼児教育です。桐生市の幼稚園教育は、群馬県内のみならず、全国的にみても歴史が古く、長年の実績の積み重ねにより、その教育レベルは非常に高く、他県や他市の模範になってきました。幼児教育の発達や充実、桐生市ならではのものであり、その伝統は市内の幼稚園に受け継がれています。2つ目としては、ものづくりのまちとして発展した本市にとって、その技術の継承や発達は非常に重要なものであり、そのための教育機関は本市にとってどうしても必要なものでありました。多くの熱意ある市民の尽力によって、まず専門学校として誕生、そして、それが群馬大学理工学部として発展した経緯があります。市民の情熱や実行力に感心させられます。また、多様な教育を展開する高等学校の存在があります。公立と私立を合わせて、本市には8校の高等学校が存在し、それぞれ個性ある人材の育成に努めており、多くの優秀な人材を社会に送り出してきました。このように、桐生市には、幼稚園から大学までが揃っており、それぞれが特色ある教育を実践し、教育に関して特色のある先駆的なまちであると考えています。</p> <p>現在、桐生市では、「桐生を好きな子供の育成」を教育行政方針の基本方針に掲げ、教育委員会内の全ての部署で、全庁的に協力を求めて数々の施策を展開しています。また、教育研究所内に群大連携担当を配置し、サイエンスドクター事業による中学生の理科学習や幼稚園児のプログラミング学習、更には未来創生塾の支援など、群馬大学理工学部と連携し、桐生ならではの特色ある施策を展開しています。今後も、教育界の先輩達が築いてきた伝統を大切に、また、地域の持つ素晴らしい環境や教育力を活用しながら、桐生らしい教育、桐生ならではの教育の更なる充実、推進を図りたいと考えています。</p>

発 言 者	発 言 内 容
荒木市長	<p>ありがとうございました。柴崎教育長からは、新しい時代を担う子供にとっての教育行政の役割について、細部にわたりご指摘をいただきました。その中でも、桐生独自の特色ある教育を推進していくことの大切さを感じました。ポイントになるのが、適正規模に対する検討ということで、新たに教育未来室を設置して、これから進めていくこととなりますが、丁寧に大事に進めていければと考えています。</p> <p>皆様のご意見を頂戴する中で、いくつかキーワードが出てきたと思います。グローバル、ひらめきの感性、AI、人間力、桐生人、桐生独自の特色ある教育、質の高い教育などが、委員の皆様の中でポイントになるものと思います。本日のご意見を参考にさせていただきながら、これから教育大綱策定に向けて骨子をまとめさせていただきます。</p> <p>他に、ご意見等ございましたら、挙手をお願いいたします。いかがでしょうか。</p>
	【委員の挙手・発言なし】
荒木市長	<p>よろしいでしょうか。進行にご協力をいただきまして、ありがとうございました。</p> <p>今後、教育関係者と意見交換を行う予定ですし、また、委員の皆様とも総合教育会議の中で議論させていただきたいと考えています。</p> <p>まずは、本日、頂戴しましたご意見を第2期教育大綱の骨子に反映できるよう作業を進めたいと考えております。第2回の総合教育会議の日程につきましては、また後日、事務局より調整をさせていただきたいと思しますので、よろしくをお願いいたします。</p> <p>それでは、予定しておりました議事は以上です。本日は、お忙しい中、ご協議いただき、ありがとうございました。</p>

○閉会 〈司会：教育未来室長〉

(終了：午後3時45分)